

「決定」業務再開

デマとペテンによる

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉碎／

「本部」革マル反動分子の手先と化した銚子内一部右翼悪質分子 「つぎつぎと明らかにする」に出る「支部」デッチ上げの事実

わが動労千葉は、昨年12月23日、銚子支部執行委員会が強行採決によって「業務再開」を決定して以降、連日、大川、石毛（ハ）ら右翼悪質分子8名に対する糾弾、追及、全組合員に対する説得行動を展開している。

この間のわれわれの糾弾、追及、説得行動によって多くの良心的組合員がいかに「執行部」の名をかたつたペテンとデマで「執行部一任」なる署名をかかされ、「本部」派にさせられているのがつぎつぎと明らかになっている。

われわれは、動労「本部」革マル反動分子と全く同じやり口の排除の論理とペテンとデマをもって組合民主主義を否定し、銚子支部の分裂、破壊を強行している大川、石毛（ハ）を絶対に許すことは出来ない。

つぎつぎと明らかにしたペテンとデマによる「業務再開」決定

大川、石毛（ハ）らは、「動労銚子支部組合員に訴える」なる掲示の中で12・23執行委員会決定の根拠としてつぎの4点をあげている。

① 銚子は、動労から脱退したのではなく、あくまでも業務を一時的に停止していたにすぎない。
② 55・10ダイ改、運用合理化の取組みの中で銚子の組合要求をかちとるには、動労としての業務を再開する以外にないと判断した。

③ 10・27臨大以降、過半数の組合員が執行部一任の意志を明らかにした。

④ 従って、執行部は、皆さんから選出された責任において業務再開を決定した。

以上の「業務再開」の根拠のどれ一つをとってみても全くデタラメなものであり、組合員をペテンにかけるものであることは明らかだ。

① 「銚子はもともと動労の組合」なるペテンとデマについては、この間明らかにしてきたように10・27臨大における「銚子は現状維持、中立」なる決定を無視し、否定するものである。

② 「銚子の組合要求をかちとるには、動労の業務再開以外にない」なるペテンとデマについて盗人だけではないとはこのことだ。

そもそも、55・10ダイ改や運用合理化計画に対し動労「本部」革マル反動分子は、一体全体何をやったというのか。国鉄35万人体制計画を受け入れ、その体制の中で自らが生き延びるために、卒先して55・10、運用合理化に協力し、屈服し、組合員の利益を売り渡したのではなかったか。

そればかりか、自らの裏切りと反動性が明らかになるのを恐れ、「運用合理化11月1日強行実施」を当局にせまり、さらに布施組織部長不当解雇処分、銚子支部破壊など当局と一体となった動労千葉破壊策動を行なっているのである。

大川、石毛（ハ）ら右翼悪質分子が真底「動労「本部」につく以外にない」と判断するのであればそれも良し。

わが動労千葉一、三〇〇組合員は、一年十ヶ月余の動労「本部」革マル反動分子との組織争闘戦を勝利的に闘い抜いた力をもって、銚子支部破壊策動を粉碎しつくすまで闘うであろう。

③ 「過半数が執行部一任の意志を明らかにした」なるペテンとデマについて

そもそも「執行部一任」なる署名集めをやることをいつ、だれが決定したというのか。さらに、「執行部一任」とは一体いかなることなのか。銚子支部執行委員会でも決定もされていない「署名活動」が無効であり、組合員をペテンにかける以外の何ものでもないことは明らかである。しかも、この間のオルグの中で明らかにしたように「皆さんが署名したからしろ」とか署名の趣意書すら見せずに「とにかく署名しろ」などと全くデタラメ極まりない署名集めであったことがつぎつぎと明らかになったのである。

さらに、およそ過半数にもほど遠い署名しか集められなかったにもかかわらず「過半数が執行部一任」などとペテンをろうしているのである。

「署名撤回、臨大開催要求」「組合費は払わない」の声が拡大

この間のわが動労千葉の銚子支部破壊デッチ上げ「再建」粉碎行動によって「業務再開」の全くのデタラメとペテンがつぎつぎと明らかになる中で多くの良心的組合員の間から、「署名撤回、臨大開催要求」「1月20日の「本部」派による組合費徴収には応じない」なる意志が明らかにされてきている。われわれは、さらに大川、石毛（ハ）ら右翼悪質分子に対する糾弾、追及行動を徹底的に展開し、銚子支部デッチ上げ「再建」策動を粉碎しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ／